

京都教育大学  
古賀松香

# 教育・保育の質を高める 幼小連携・接続をめざして

前進し続ける連携・接続へ

# 本日の内容

宇治市の保育・教育の連携・接続を発展的に持続可能にするには？

- 本日のグループ発表について
- 子どもが健やかに学び育つために私たちは何ができるか
  - 構造面へのアプローチ
  - プロセスへのアプローチ
  - これからへ向けて

# 本日の発表について

- すべてのブロックで架け橋を進めようという取り組みが素晴らしい  
⇒ ブロック間の交流により、「うちでもできそうなこと」を知り、一歩前進するための次年度の取り組みを考えよう
- 交流により互いの教育を知り合うことが架け橋プログラムの第一歩  
⇒ 互いのよさを活かし合うような内容のつながりを考えよう
- 子どもが交流活動を楽しんでいた ⇒ 子どもは何に気付き、楽しみ、その後活かそうとしていたか（学び）を明確にしよう ⇒ それぞれの園校での保育・授業とのつながりやねらいの下での位置づけを考えよう

# 本日の発表について

- 例えば、玉入れで数えることがおもしろい、という姿が見られたら、数えるということが普段の遊びの中でもっと充実するような遊びを考えてみる。子どもが自分で数えたり、多い少ないを確かめたり、人とももの数を合わせたりする場面を保育者が考え、豊かにすることを考える。それが幼児教育の質向上へとつながる。
- もうじゅうがり、クリスマス飾り作りの遊びで子どもの発達はどのように見とれたか。幼児ができることを認められる経験にもなるようにすると、小学校でもできると自信になるのでは。
- 絵の具、どろんこという発散的な遊びをすることの意味。どうしても緊張しがちなところを、ほぐしながら楽しむ。一方で、知り合うこと、学び合うことにどうつなげるか。年間計画の中で位置づけて、展開していくことが重要。
- お客さんとして迎えられる嬉しさも大切。さらには、一緒に手を動かしたり、何かを食べたりすることで交流が進むのは大人も同じ。その中で感じたり考えたりする内容は、さらに開かれていくのでは。

# 本日の発表について

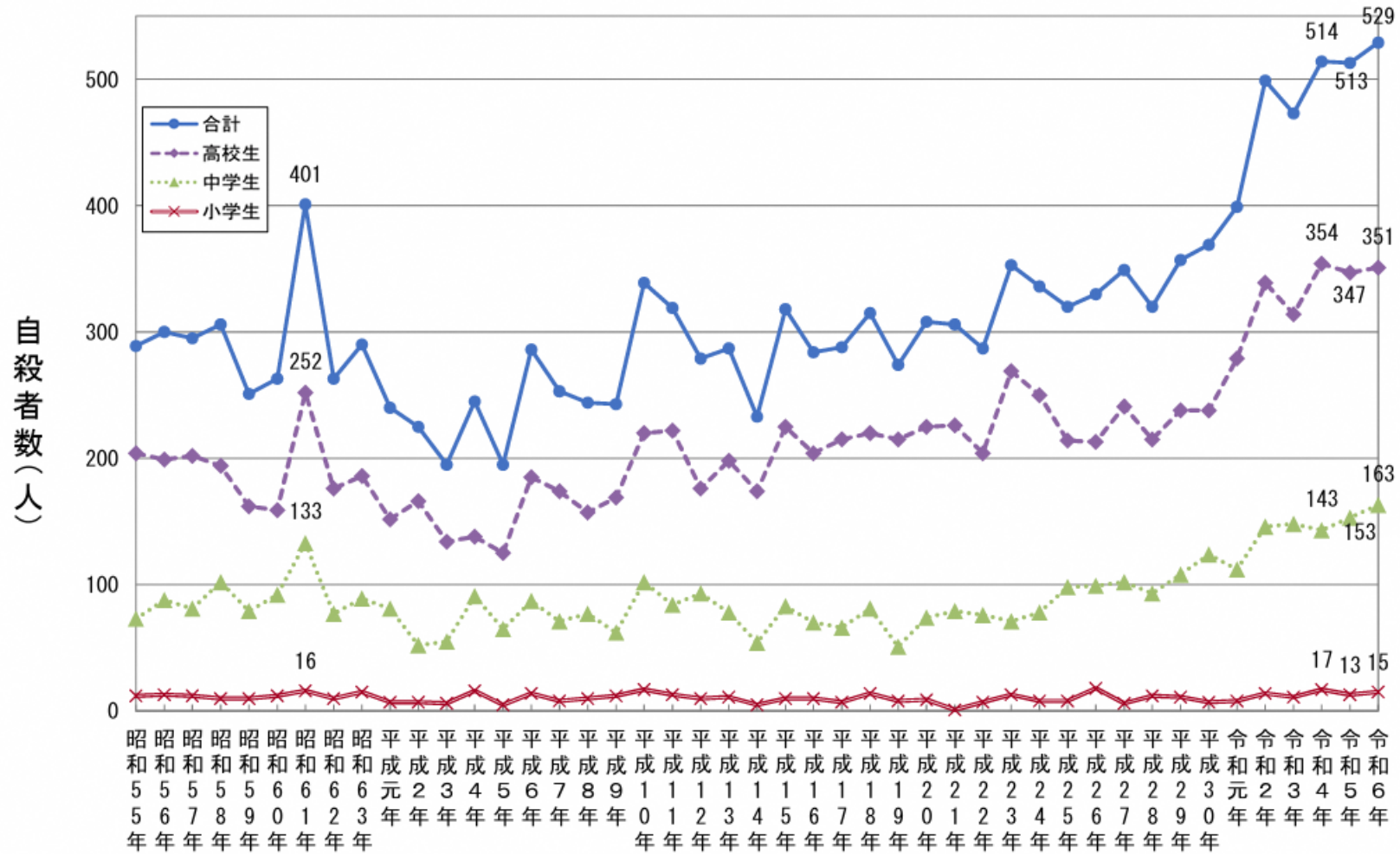
- どちらの子どもも主体的に関わるということがどのようにしたら可能か。
- 年間複数回ある交流で、関係が深まるということはどのようにしたら可能か。
- 一年生が普段から自信を持てる生活や授業とはどのようにしたら可能か。幼児期の育ちを活かす学校生活ができているかということを振り返るきっかけとしても。
- 気楽にと言いながら、子どもの長期的な育ちを見通していくこと、具体的な育ちを知ること、それを活かしていこうとすること、続きがあることのすばらしさ！
- 子どもの中に思いが生まれ、それを知り合い、受け止め合うことを大切に。
- 交流を通して子どもの中に生まれた興味関心を次の教育・保育のプロセスに活かす。

# 本日の発表について

- 小学校においても具体的・直接的体験をし、感じたことを言葉にして、考えを交流していくことが重要であり、それが記号接地した学びとなっていく。
- 大人もわくわくしながら子どもの姿を見取り、価値づけ、カリキュラムを作っていくことが、宇治市の教育の更新エネルギーとなっていることが素晴らしい。
- 1年生だけでなく、子どもの育ちと学びをつなげていく全学年の取り組みとしていくことが重要。

子どもが健やかに学び育つために  
私たちは何ができるか

図表3-1 小中高生別自殺者数の年次推移



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

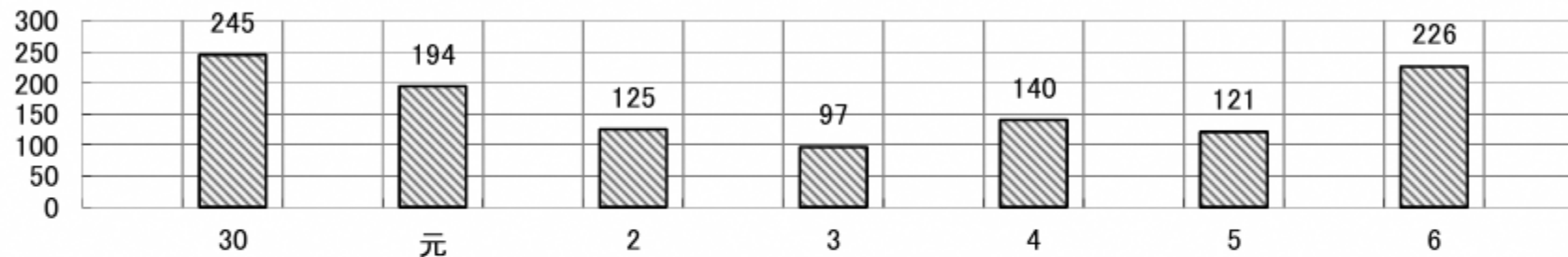
令和 6 年度 宇治市児童・生徒の問題行動と不登校の状況について

1 小学校

(1) 問題行動件数の推移

(件)

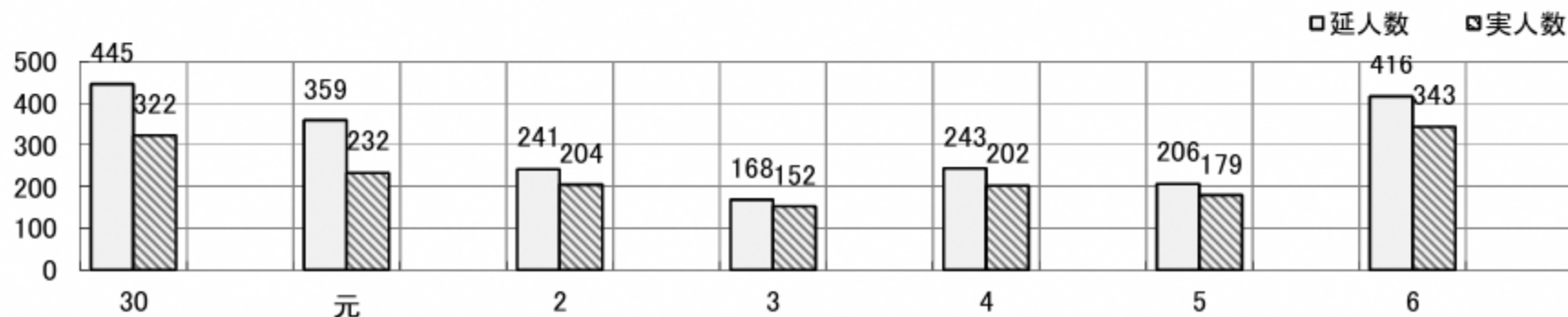
| 年度 | 30  | 元   | 2   | 3  | 4   | 5   | 6   |
|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|
| 件数 | 245 | 194 | 125 | 97 | 140 | 121 | 226 |



(2) 指導人数の推移

(人)

| 年度  | 30  | 元   | 2   | 3   | 4   | 5   | 6   |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 延人数 | 445 | 359 | 241 | 168 | 243 | 206 | 416 |
| 実人数 | 322 | 232 | 204 | 152 | 202 | 179 | 343 |



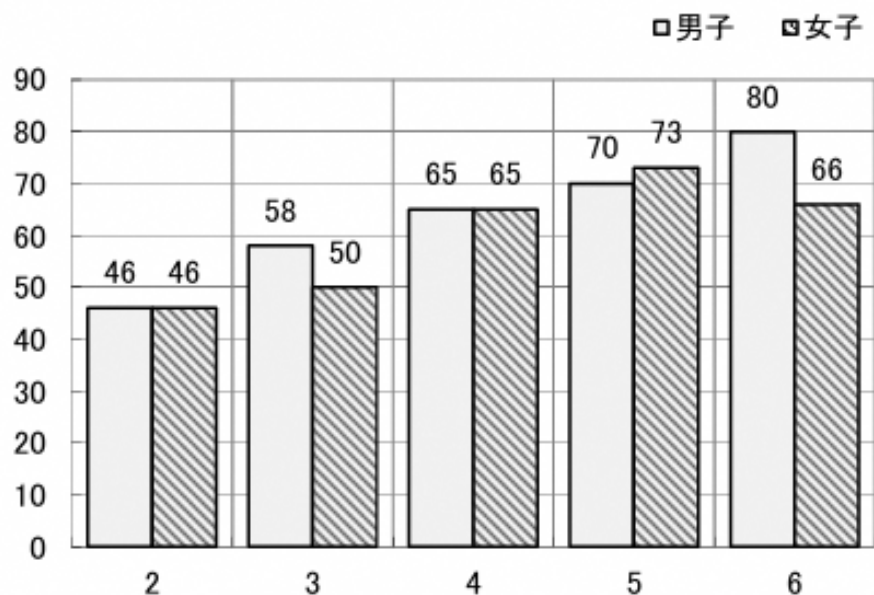
#### 4 不登校の状況（文部科学省調査より）

##### （1）不登校児童・生徒（年間30日以上欠席）の推移

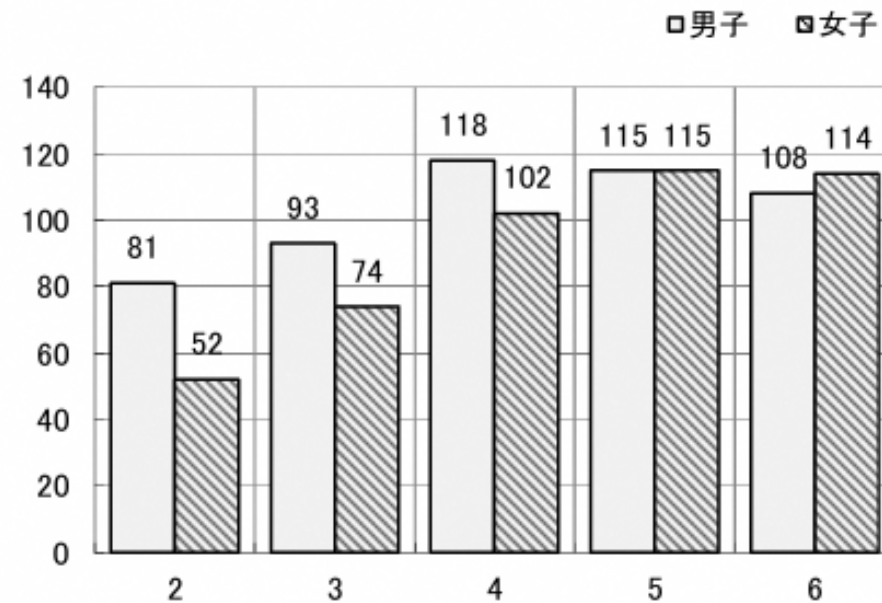
（人）

| 年度  | 2   |    |     | 3   |     |     | 4   |     |     | 5   |     |     | 6   |     |     |
|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|     | 男   | 女  | 合計  | 男   | 女   | 合計  | 男   | 女   | 合計  | 男   | 女   | 合計  | 男   | 女   | 合計  |
| 小学校 | 46  | 46 | 92  | 58  | 50  | 108 | 65  | 65  | 130 | 70  | 73  | 143 | 80  | 66  | 146 |
| 中学校 | 81  | 52 | 133 | 93  | 74  | 167 | 118 | 102 | 220 | 115 | 115 | 230 | 108 | 114 | 222 |
| 合計  | 127 | 98 | 225 | 151 | 124 | 275 | 183 | 167 | 350 | 185 | 188 | 373 | 188 | 180 | 368 |

##### <小学校>



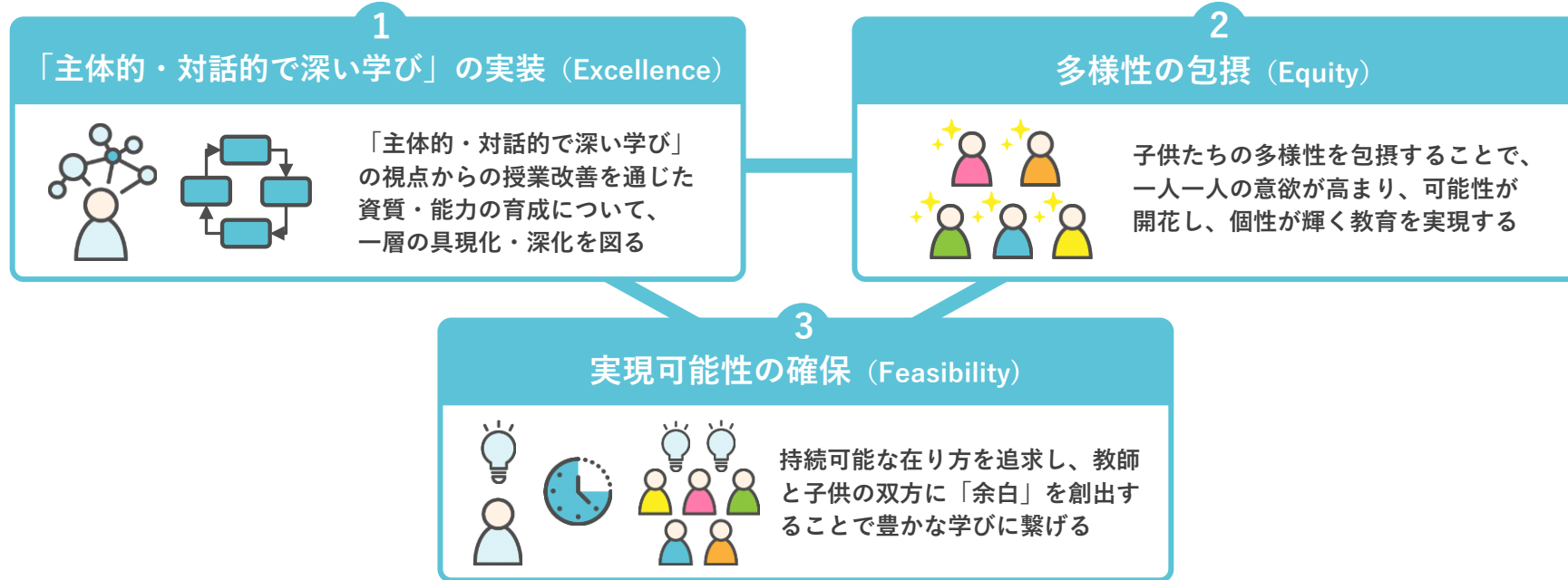
##### <中学校>



# 1. 学習指導要領改訂の大きな方向性とは？

## 次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～



学びをデザインする高度専門職としての教師  
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備  
総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む

文部科学省 教育課程企画特別部会論点整理  
(令和7年9月25日)ポイント資料：詳細版より抜粋

# 1. 学習指導要領改訂の大きな方向性とは？

## 次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手の育成

「好き」を育み、「得意」を伸ばす  
(興味・関心)



当事者意識を持って、自分の意見を  
形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした主体的な進路選択の促進

高  
中  
小  
幼

課題設定の充実

グループ探究  
個人探究

総合



生きて働く「確かな知識」の習得

興味・関心が広がる  
教材・学習方法の選択を促進

自分の意見を表現する活動の充実

探究的な要素を持つ学習活動の充実

家庭学習の内容を自律的に決められるような段階的指導  
(家庭学習はじめ学習習慣の確立を含む)

各教科等

児童生徒主体のルール形成や  
学校生活改善、行事の創造等  
の明確化

(みんなが学びやすいルールや環境  
の構築を含む)

納得解を形成しようとする  
ことの重要性の明文化

(安易な多数決の回避や少数意見の  
吟味)

特別活動

考え、議論する  
道徳の徹底

(主体的な判断の重要性、知・徳・体の  
調和のとれた発達に向けた、道徳的価値  
の対立を乗り越える必要性や道徳的実践  
の強調)

道徳

言葉を用いて思考を深めていく指導

他者と関わり協同する力の育成

多様な子供を誰一人取り残さない  
視点としての個別最適な学び  
と協働的な学びの一体的充実

科学的知見も生かした  
効果的な指導計画・授業方法  
児童生徒の学習方略の指導

障害や認知特性等、多様な  
実態を踏まえた調整  
(教科等、家庭学習含む)

全ての活動の基盤として  
の心理的安全性の確保

学びをデザインする高度専門職としての教師

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備

「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

総合的な勤務環境整備

幼児教育と小学校教育の学びの繋がりについて、幼児教育施設の先生と小学校の先生が対話しながら作成した資料

### イメージマップ

**幼稚園**

3 歳児



砂場の砂「冷たくて気持ちいい」

4 歳児



「うまく水が流れない。どうしてだろう？」

5 歳児



「ここ（倉庫裏）の土を使うと、だんごができるよ」

砂場の水たまりの上にシートをかけた翌日。「水たまりが固まっちゃった」

「バケツで（水を）流すよ」

### 生活科上「なつとなかよし」 \*なつのおそびをたのしもう（砂、水てっぽう、色水、シャボン玉など）

**小学校**

1 年



土の中に手を入れたりして、上の方がさらさらしている、中の方が冷たい、砂の色が違うなど感じたことを言葉で伝え合う。

3 年 **かげと太陽**

日なたと日かげの地面の温度の違いを正確に分かるために温度計を使って確かめる学習

- ・日なたと日かげの地面を触って、比べてみる。
- ・日なた：暑い。明るい。あたたかい。かわいている。
- \*プールサイドをはだして歩いたら・・・
- ・日かげ：すずしい。暗い。冷たい。しめっている。

4 年 **地面を流れる水のゆくえ**

水の流れと地面のかたむきにはどんな関係があるのかを確かめる学習

- ・雨が降った後、どうしてみずたまりや水の道ができるのか、雨上がりに実際に運動場で観察してみる。
- ・水は平らなところでは流れない。
- ・高いところから低いところへ流れる。

水のしみこみ方には、土の種類によって違うことを確かめる学習

- ・砂場と校庭の土を触ってみる。（ざらざら、さらさら⇄粒の大きさ違う。）

5 年 **流れる水の働き**

流れる水にはどんな働きがあるのかを確かめる学習

- ・大雨の後の川はどうして水がにごるのか、実際に土の山をつくり、傾いた地面に水を流してみる。
- ・砂やどろが流れてにごる。
- ・砂や泥は、土が削られて運ばれる。

水の量が増えると、流れる水の働きにはどんな変化があるのかを確かめる学習

- ・雨が強くなると、砂や泥を運んでにごって見える。
- ・大雨で川の水がにごる。
- ・土の山をつくり、傾いた地面に水を流してみる。

6 年 **大地のつくりと変化**

- ・大地のつくり
- ・地層のでき方

【出典】イメージマップ『生活科上「なつとなかよし」』宇治市立南部小学校・宇治市立ひがしうじ幼稚園作成

文部科学省 教育課程部会 幼児教育ワーキンググループ  
（第4回）配付資料（資料1より抜粋）

13

# 同じ目標に向かって進もう！

「好き」を育み  
「得意」を伸ばす



当事者意識を持って、  
自分の意見を形成し、  
対話と合意ができる

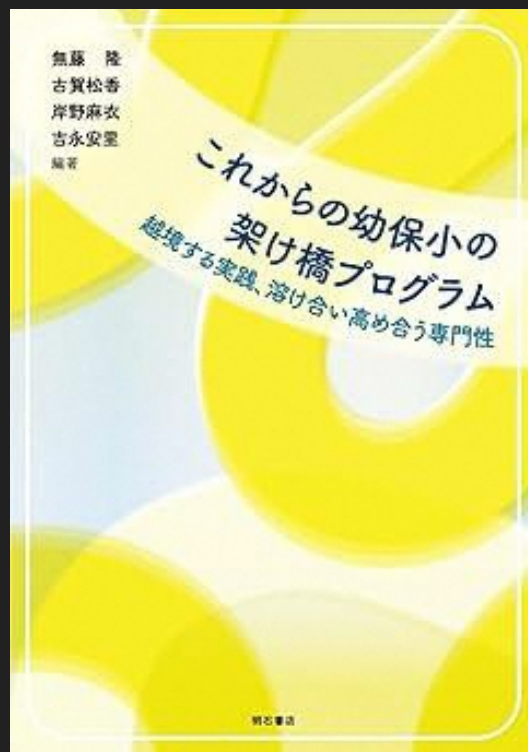
- 子どもが育つ保育・教育環境を、この2つの目標に向かって全小学校区で見直す
- 子どもの長期的発達をつなぐための専門性の越境とそれぞれの教育の質向上へ

# 互惠性を超えて越境する専門性へ

架け橋期の実践は、専門分野の中に閉じた垂直方向の学びとは異なり、乳幼児の保育、小学校教育といったそれぞれの専門分野を超えて、お互いの実践を知り合い、なぜそうするのかを問い、対話し、生かし合うことによって、見方が変わるプロセス、水平方向の学びが生じているのではないのでしょうか。幼保小のそれぞれの現場にいる専門家たちは、専門領域間にある境界を横断し、互いに知らない領域に踏み込み、協働的に問題を解決するために、実践を創造的に工夫し生み出そうとする、これまでとは異なる挑戦が求められているのです。架け橋期とは、水平方向の専門性の発達が求められる融合的実践領域だと言えます。（古賀，印刷中）

# 境界を越える理論と実践を知りたい方はこちら

無藤隆・古賀松香・岸野麻衣・吉永安里（編）『これからの幼保小の架け橋プログラム  
——越境する実践、溶け合い高め合う専門性』明石書店 2026年3月20日発売



予約受付中!!



# 交流保育・授業とは何を生み出すためにするのか

## 子どもたち

- 幼児が小学校という場やそこにいる人と出会い、期待感をもつ
- 小学生が幼児に思いを寄せ、自己を十分に発揮する機会をもつ
- 相互に知り合い、活動を共に楽しむ中で、自分たちだけでは得られなかった面白さに出会い、関心や知的好奇心を抱き、環境との関わりを一層楽しむ

## 大人たち

- それぞれの専門性や実践文化をもつ者同士が会うことで、異なる方法、異なる子ども理解等を知る
- 異なる専門性から見た教材観、保育・教育内容、子ども観、教育観を知り、自分を見返す
- 互いの現場の子どもの姿を知り、共通の育てたい子ども像を探り、保育・教育をつなげる視点をもつ

越境を生み出す組織構造

越境する内容構造

地域全体の組織開発 校区を超えた情報交流

異校種間交流研修 合同研究体制 連携組織編制  
カリキュラムマネジメント会議

子ども観 発達観 環境観 教材観  
保育・授業の捉え方や作り方

カリキュラム 行事計画  
保育／授業案 記録

保育・授業の具体  
子どもの姿  
教材 指導 環境構成

# まずは具体を知るところから その先へ展開するには

違和感分析をすることで  
他の実践にある価値観や  
方法のよさを知ること

この違いは  
なんだろう

違和感分析をすることで  
自らの実践の理念や  
子どもの見方が明確に

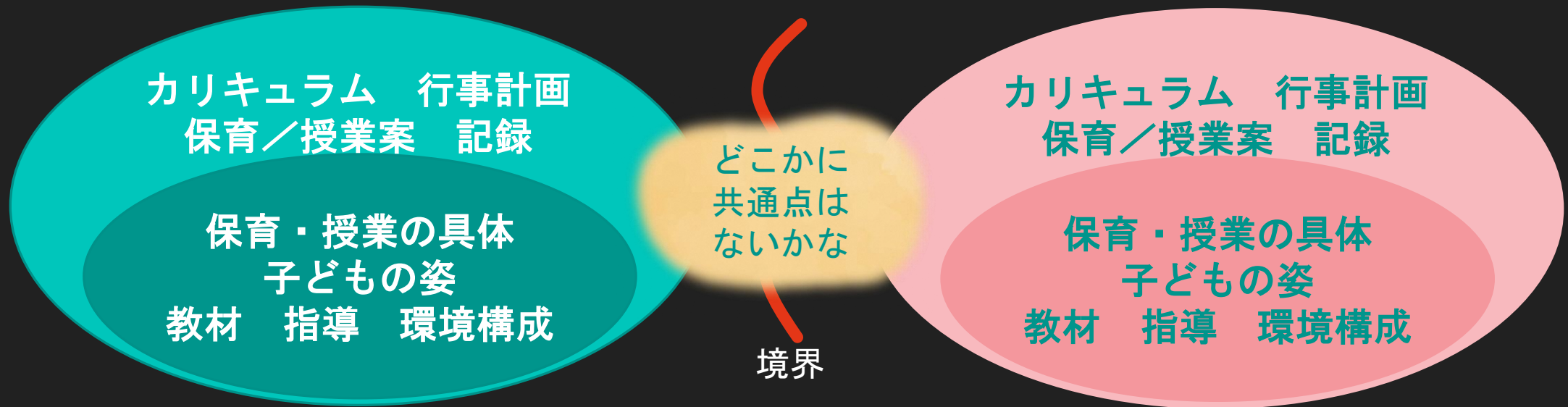
保育・授業の具体  
子どもの姿  
教材 指導 環境構成

保育・授業の具体  
子どもの姿  
教材 指導 環境構成

境界

専門性は簡単には越境しない。通常、防衛反応として抵抗感を覚える。  
大人は境界問題は見えても放置したい。  
しかし、子どもは幼小間を越境しなくてはならない。

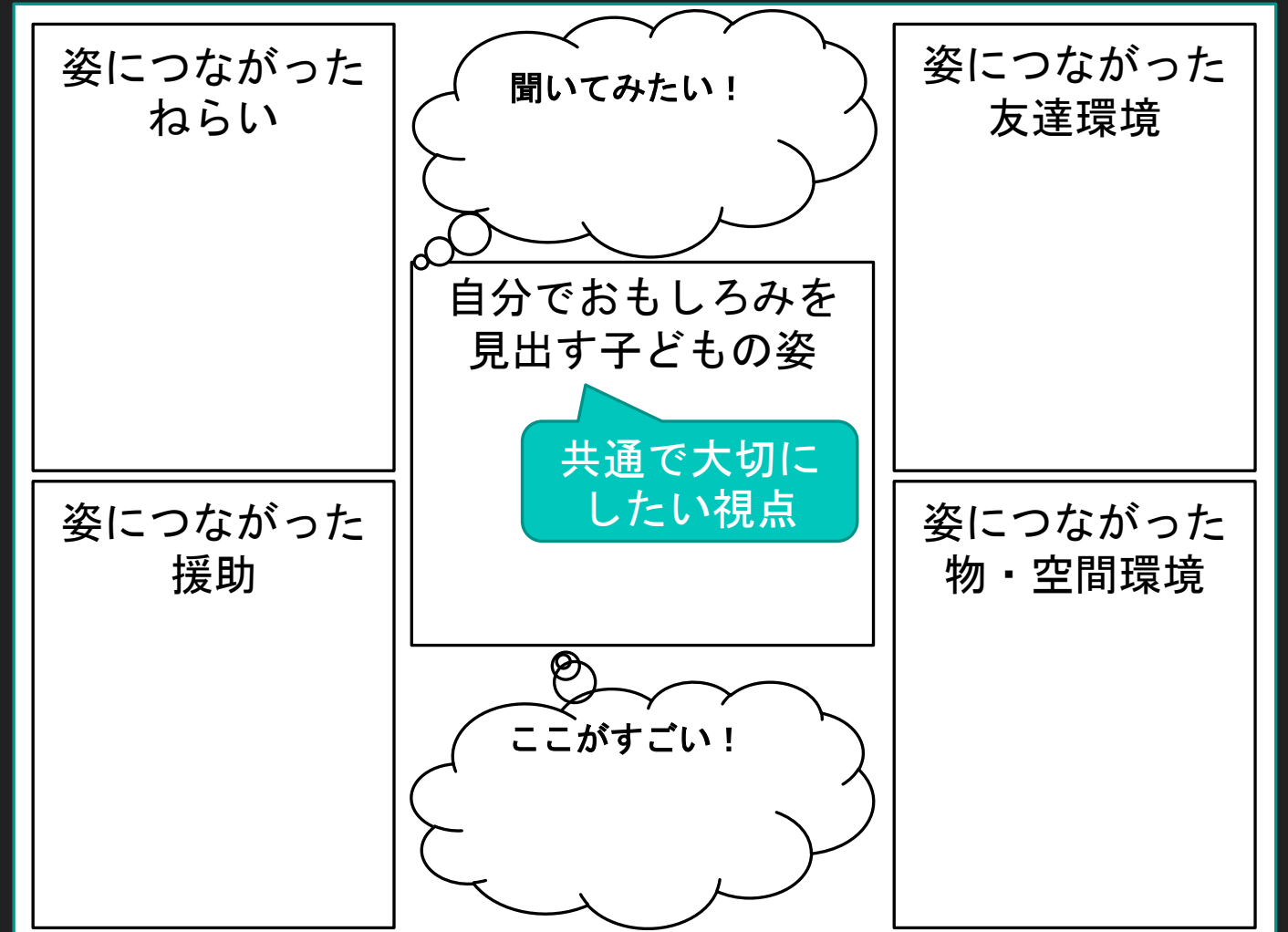
# 境界を超えるには 対話で風穴を開ける道具立てを



細かく見ると異なるが、大きく捉えると共通する点が見えてくる。共通点を実践を見る視点として、記録を取るフォーマットを作る等、対話の道具を作る。道具を用いて共通の視点の元で対話し、相互理解を図る。

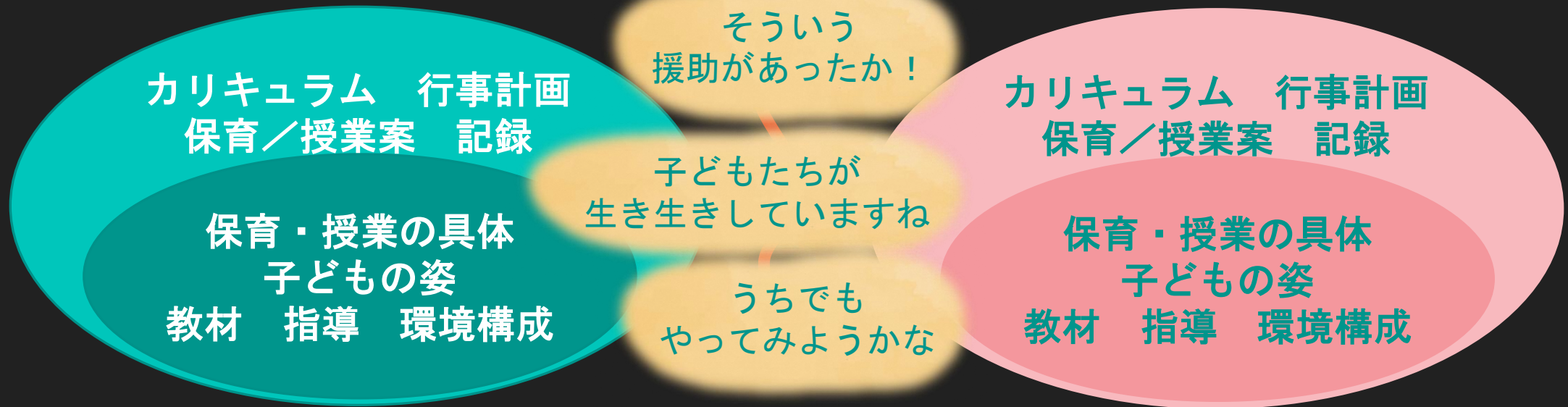
## 対話には道具を 道具は次につなぐ資料化を

- 実践を開いてくれたことへの感謝とリスペクトが対話の基盤
- 専門家同士の対話が実りあるものになるためには、道具立てが重要。難しすぎない視点と、肯定的な受け止めを大切にしつつ、安易な協調に終わらないような工夫を含める。
- できるだけ書きとめる方式で記録を取っておくと、それがカリキュラム作成の基礎資料となる。



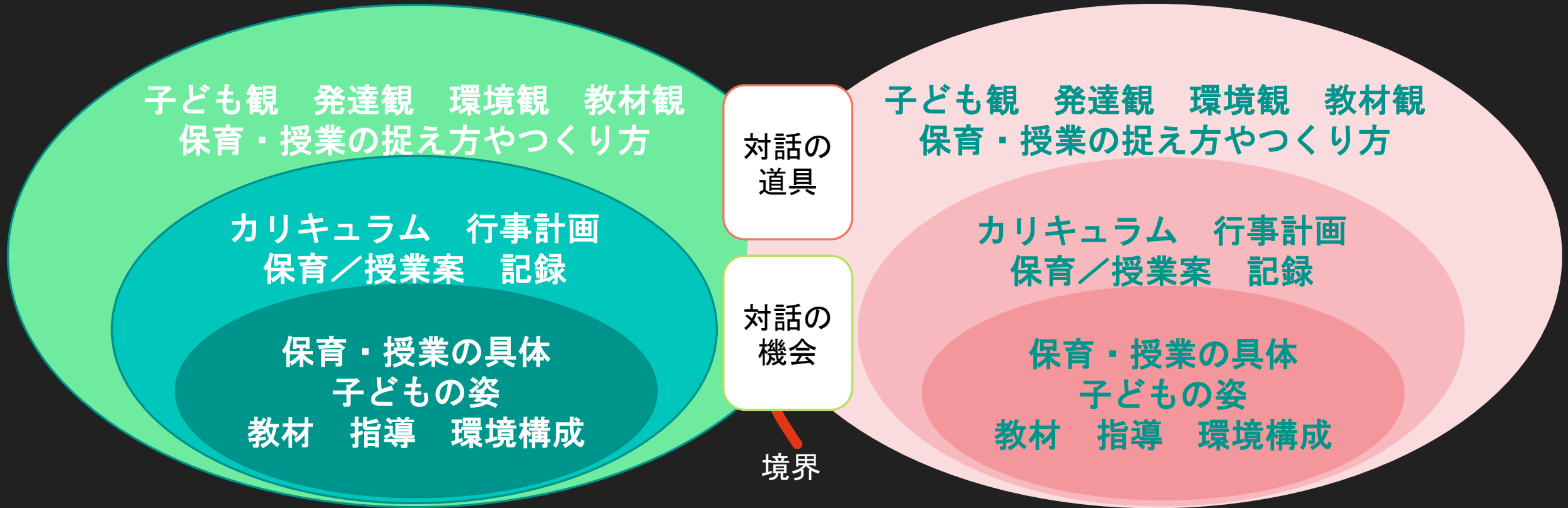
保育／授業を見合う時の記録フォーマット例

# 対話は具体と行き来しながら重ねる 継続性の重視



記録、写真、動画、エピソード、その他資料（おたよりや行事のプログラム等）を道具に、対話を重ねるうちに、境界の風穴が増えていく。互いが見えるようになり、より子どもが生き生きする実践のために互いの専門性を活かし合う対話へ

# 対話で開いた風穴からつながりが創られていく



実践を見合ったり交流したりする「具体」の時間と  
それを捉え直す「言葉」と「概念化」の時間を行き来することで  
子どもや発達、教育観の共通点が見えるだけでなく、新たに協働的に作られていく

# 楽しかったですね を超えて 子どもの育ちを語ろう

- 小中高生の自殺、問題行動、いじめ、不登校の増加は、今すぐ取り組みを始めなければならない緊急課題であることは明らか
- 空の箱に中身を詰める発想の教授型の教育で、これからの時代を生きる子どもを育むことは困難。子どもが環境と出会い、感じ、考えたことを、交わせ、生み出す生成型の教育への転換が必要。
- どの現場も今が最高点ではない。子どもと環境の出合いをさらに豊かにすることへ向かって、大人の挑戦が求められる。
- その挑戦は孤独に闘うものでなく、仲間とつながり合い、知り合い、考え合う協働で進めることで、大人たち自身が生み出す生成的教育共同体へと発展することを目指す。

# 大人が協働するための仕組みを整備しよう

- 宇治市の強みは、教育委員会と乳幼児教育・保育支援センターの協働的仕組み
- 小学校と乳幼児教育・保育をつなぐ体制づくりを！
- 各小学校の研究課題に架け橋の取り組みをつなぐ仕組みを入れる
- 架け橋主任を各小学校に配置する
- 小学校の調整授業時数の一部を架け橋プログラムに活用する
- 事前事後研修の実施と架け橋期コーディネーターの支援の充実
- カリキュラムは対話とプロセス重視で作成
- 事例記録で交流し、市内で学び合い高め合うことを可能に

# 大人が変われば子どもも変わる！

「好き」を育み  
「得意」を伸ばす



当事者意識を持って、  
自分の意見を形成し、  
対話と合意ができる

- あなたの園・学校、クラスの子どもの「好き」はどんなことですか？
- 子どもの「好き」の中に、どんな学びを見出していますか？
- 子どもの「好き」を探究する大人同士が、専門性の越境により高め合っていますか？

チームを孤立させない  
組織開発が重要！！

地域全体の組織開発 校区を超えた情報交流

異校種間交流研修 合同研究体制 連携組織編制  
カリキュラムマネジメント会議

子ども観 発達観 環境観 教材観  
保育・授業の捉え方や作り方

カリキュラム 行事計画  
保育／授業案 記録

保育・授業の具体  
子どもの姿  
教材 指導 環境構成

越境を生み出す組織構造

越境する内容構造

# 子どもが明日学校へ行くのが楽しみになるように

子どもが健やかに  
学び育つために  
私たちは何ができるか

- 分断により凝り固まり、自分の領域を守り切ることも、自分の領域をそのまま浸食させて拡大することでもない。
- それぞれの文化や実践を認め合い、でも今にとどまらず、子どもにとってよりよい教育・保育を考え合い、互いに高め合うことを、着実に進めよう。